

インクルーシブ教育が進められている中、みなさんに特別支援教育についての正しい知識や考え方についてお知らせするための通信です。不定期ではございますが、一読して頂けるとありがたいです。

「障害」という言葉って？

障害のない人＝健常(普通)というシンプルな考え方

「障害」とは、定型発達(健常)との連続線上にある

視力・視野・色・黒目など目で考えてみよう

純粋に100%健常だと思う人いますか？

第1回目としては、障害の考え方についてです。もう皆さんご存じの方もいらっしゃると思いますが、大切なことですので確認だと思って読んでみてください。

障害は、障害だ、健常だとはっきり区別されるものではなく、濃淡である、ということです。

つまり、視力で例えると、どのくらい低いと障害なのか？ということになり、はっきりとした基準はありません。

これを「こだわり」におきかえてみると・・・
どのくらいこだわれば？何にこだわれば？
まったくこだわらないことが良い？ということになり、
逆にこだわらない人はいないですし、全くこだわらない人も心配ですよ。故に障害(特性)とは、
有る無いではなく、濃淡であると言えるのです。

また、先ほどの視力の低い話で言えば
メガネをかけたり、コンタクトにした場合は
どうでしょう？視力の高い人と同じような生活を
困ることなく送ることができます。

その場合、メガネをかける前と後では、困りを感じる「濃淡」も変わります。メガネという環境次第では困りの濃淡も変わってくるということです。

人の生きづらさは その人と環境の間に生まれてくる

障害(特性)とは
“有無”
ではなく
“濃淡”

「環境」の
あり次第で障害
特性が淡くても、
困難さ強くなる

「障害」概念の再考と社会

概念

- ・「健常」の概念が絶対的なものではない
- ・「障害」の概念も絶対的なものではない

社会

- ・多様性を包括する地域社会の構築が重要
- ・それを支える人々の意識の重要性

意識

- ・「(私たちと異なる)弱者に優しく」から
- ・「多様な人たちと共に生きよう」
への転換

今回のまとめ

- ・障害という困り感は、環境によって濃くも淡くもなる。
- ・障害とは、今の生活に対しての困りの濃さ淡さである。環境が合わなければ、困りが大きくなり、環境が良くなれば困りが小さくなると言える。
- ・まずは、環境を変えてみる。